

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

数学科B

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観 点	1 学期			2 学期			3 学期
	学 年	課題分析	具体的な改善策	学 年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○正負の数・文字式の簡単な計算を理解している。 ▲分数を含む式の計算に課題がある。	・授業の開始時にふりかえりの時間を設定し、ホワイトボードを活用することで、一人一人が知識・技能を定着するための時間を設定する。	1 年	○作図や空間図形の体積を求めるなど、図形領域における技能を習得している。 ▲関数領域の知識・技能に課題がある。	・どの学年も関数領域に苦手意識を感じている生徒が多いため、冬季休業中に関数領域の基礎的な内容の復習ができる課題を出し、知識・技能の習得を目指す。	・ワークの取組方法や学習方法、ノートの書き方など、年度当初に丁寧な学習指導を実施する。
	2 年	○式の計算・連立方程式の簡単な計算を理解している。 ▲小数や分数を含む式の計算に課題がある。		2 年	○いろいろな角の性質を理解し、角度を求める問題を解くことができる。 ▲関数領域の知識・技能に課題がある。		・授業の導入時にホワイトボードを活用した1問1答の復習を行い、基礎学力の定着を目指す。
	3 年	○多項式・平方根の簡単な計算を理解している。 ▲平方根と多項式の融合問題に課題がある。		3 年	○解の公式等を用いて、2次方程式の解を求めることができる。 ▲関数領域の知識・技能に課題がある。		・小單元ごとに確認テストを実施することで、基礎学力の定着を目指す。
思考・判断・表現	1 年	○正負の数や文字式を活用する課題について既習事項を基に考えることができる。 ▲文字式を活用する力に課題がある。	・単元のまとめの際に、高校入試の過去問等の発展的な問題を解く時間を設定することで、様々な問題に触れ、思考力を高める。 ・問題解決学習を取り入れることで、基礎学力を活用する場面を設定する。	1 年	○作図を活用した課題を解決できる。 ▲身の回りの事象を比例や反比例と関連付けて思考する力に課題がある。	・単元のまとめの授業で、学習内容と身の回りの事象を関連付けた内容を取り扱う。 ・身の回りのどのような場面で学習内容が活用されているかをレポートにまとめる学習活動を行う。	・数学的な考え方の表現の仕方やまとめ方、グループワークの進め方などを年間をとおして指導をする。
	2 年	○式の性質を文字を用いて説明することができる。 ▲連立方程式の文章題において、割合の問題を立式する力に課題がある。		2 年	○合同な図形の証明ができる。 ▲身の回りの事象を一次関数と関連付けて思考する力に課題がある。		・課題解決の場面で、自分の考えを発表する時間を設定し、表現力の向上を目指す。
	3 年	○一般的な文章題を解く力が定着している。 ▲身の回りの事象に数学的な考え方を活用する力に課題がある。		3 年	○相似な図形の証明ができる。 ▲1次関数と2乗に比例する関数の融合問題を思考する力に課題がある。		・学習内容を生徒にとって身近な事象と関連付けた教材を開発し、創意工夫ある学習指導を実践する。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○意欲的に発言し、課題へ粘り強く取り組む。 ▲提出物の提出状況に課題がある。	・授業で発言する場面を設定するために、グループワークやペア学習等を取り入れることで、仲間と協力しながら解を導く経験を積ませる。 ・ジグソー学習等、創意工夫ある授業を展開する。	1 年	○発言が活発で、協働的な学びの実現ができている。 ▲提出物の提出状況が二極化している。	・発問を工夫したり、学習形態を工夫することで、生徒の発言が活発となる授業を目指す。 ・提出物の状況を改善するために、生徒一人一人の提出物を細かくチェックし、アドバイスなどのコメントを記入する。	・数学レポート作成の課題や、基礎学力コンテストの実施をとおして、生徒の主体的な学びにつながる機会を与える。
	2 年	○意欲的に発言し、課題へ粘り強く取り組む。 ▲副教材の活用の仕方が効果的でない。		2 年	○全体的に学習意欲が一層高まり、課題へ粘り強く取り組む。 ○疑問点を自ら質問することができる。		・ICTを活用することで、個別最適な学びができる授業展開にする。
	3 年	○副教材への取り組み方やレポートなど、意欲的に取り組んでいる。 ▲授業で発言する生徒が限られている。		3 年	○自主的に発展問題に取り組む様子が見られる生徒が増えている。 ▲授業での発言があまり活発でない。		・発問を工夫することで、生徒一人一人の学びが深まる学習活動の授業実践を行い、数学の有用性について感じさせる。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）		研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性とコミュニケーション能力を育む指導の工夫		・生徒が主体的に取り組めるように、身の回りの事象を学習内容と結び付けて、意欲を掻き立てる授業を展開する。 ・授業を通して、コミュニケーションを育むために、グループワークを取り入れる。	○生徒がわかりやすいと感じる授業を展開することができた。 ▲ICT機器を活用して学びを深めることができなかった。	・問題解決学習を設定し、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫をしながら授業展開を行うことができた。 ・個別最適な学びの実現に向けたＩＣＴ機器の活用法等を今後検討し、実践していく。		○ＩＣＴ機器を活用したグループ学習やペア学習を導入し、生徒が互いに意見を交流しながら学習内容を深めることができた。 ▲個別最適な学習形態の推進。	ICTの活用を行ったことで、個別最適な学びができる授業を展開することができた。今後はフィグジャムやスプレッドシートなどを活用した授業実践を行う。